

平成 28 年度 特別編：霞ヶ浦自然観察会結果報告

自然博物館第 67 回企画展プレイベント

「投網で調査！霞ヶ浦の在来魚と外来魚」を実施しました。

開催日時：平成 28 年 8 月 7 日（日）午前 9 時 30 分から午後 2 時まで

開催場所：（午前）かすみがうら市戸崎 霞ヶ浦湖岸（川尻川ウェットランド付近）

（午後）霞ヶ浦環境科学センター研修室および展示室

参加者：43 名

今回の霞ヶ浦自然観察会は、ミュージアムパーク茨城県自然博物館で平成 28 年 10 月 8 日～平成 29 年 1 月 29 日の会期で行われる第 67 回企画展「外来生物の現状と課題（仮称）」のプレイベントとして、霞ヶ浦環境科学センターと共催の特別編として実施しました。

当日は気温の上昇が心配されましたが、時々太陽が雲に隠れ、心地よい風が吹いていたため、体調を崩す参加者もなく、無事に実施することができました。

午前中はセンターに近い川尻川ウェットランドで、実際に投網や、たも網を使って、全員で魚を捕まえて観察しました。霞ヶ浦には現在約 60 種の魚類が生息すると言われていますが、1 時間ほどの間に、その 5 分の 1 にあたる 12 種類の魚類を観察することができました。また、今回は小学校高学年の参加者が多く、短時間に投網の腕も上達し、多くの子どもたちが投網で魚を捕まえることができました。

午後はセンターに移動し、霞ヶ浦の在来魚や外来魚について、スライド資料による説明と展示室の水槽や標本による観察を通して学びました。

生き物を自らの移動範囲（自然分布域）を越えて持ち込むことは、連れて来られた生き物にとっても迷惑なことであること、一度失われた生態系は元の形には戻らないこと、外来生物に対しては予防 3 原則「入れない、捨てない、広げない」が大事であることを中心に説明しました。

生物多様性に関する問題は、大人でも理解することは難しい問題ですが、次世代に多様な生態系を残し、引き継いでもらうためには避けては通れないものです。多様な生態系が集まって、地球という生態系が持続していることをこれからも考えていきたいと思えます。

参加者のみなさん、運営補助をしていただいたパートナーのみなさん、自然博物館の中川裕喜先生、土屋勝先生ありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

今回観察した魚類は以下の通りです。

霞ヶ浦の在来魚：ワカサギ、ボラ、ギンブナ、モツゴ、ヌマチチブ、ウキゴリ

霞ヶ浦では国内由来の外来魚：ハス、ゲンゴロウブナ、ツチフキ

国外由来の外来魚：チャンネルキャットフィッシュ、ブルーギル、タイリクバラタナゴ
魚類以外の外来生物

スクミリンゴガイ、ミズヒマワリ

観察会の様子を御紹介します。



開会式の様子。



観察会会場です。



早速、魚捕りを始めます。



上手に投網が開くようになりました。



捕れた魚をみんなで観察します。



研修室での学習 (右上)



展示室での観察 (右下)